

令和 5 年 6 月 25 日現在

機関番号：32640

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00172

研究課題名（和文）近世杉戸絵に関わる総合的研究

研究課題名（英文）A Comprehensive Study of Sugito (Wooden Sliding Door) in Early Edo Period

研究代表者

木下 京子 (Kinoshita, Kyoko)

多摩美術大学・美術学部・教授

研究者番号：60774560

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：主に江戸時代に制作された城郭御殿や寺院、拝殿の杉戸の絵と引手金具より調査研究を行った。杉戸に描かれたモチーフと画題の推移と引手金具の意匠と技術の流れを追うことができた。1873年の廃城令で廃城となり解体された御殿の建築部材は大蔵省により売立てられ、特に山中商会の米国進出に伴いニューヨークとボストンで城や寺院の建築部材とともに杉戸も売立てられていたことが判明した。現在米国に所在する杉戸は江戸時代中期以降に制作されたもので、法量と図様より徳川家と直接関係する廃城となった城から流出したものである。杉戸絵全体を概観すると、江戸前期と中後期では画題とモチーフの変化を看取できる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本絵画史において襖絵は取り上げられても杉戸絵が着目されることは皆無に近く、副次的な扱いに過ぎない。本科研で杉戸に焦点を当てたことで、現存する杉戸から城の内部の位置関係、室内障壁画と杉戸絵の画題やモチーフの関連性、紙や絹ではなく杉板に絵を描くことの創意工夫を考察した。また引手金具の意匠と技術の変遷、襖と杉戸の引手金具および室内装飾金具との共通性、杉板の使用部位と加工法など実物より具体的な検証を行うことができ、学術的新知見をもたらすことができた。明治時代以降、さまざまな文化財が海外に流出したが、米国での杉戸とアーカイヴズ調査より、収集家の手元に至るまでの販路や売買の実態の一端を知ることができた。

研究成果の概要（英文）：We researched on sugito-e and pull metal fittings of castle palaces, temples, and halls of worship produced mainly in the Edo period, and the motifs and subjects of the paintings on sugito and the design and techniques of the metal pulls fittings were traced and studied. It was discovered that sugito were sold along with building materials for castles and temples in New York and Boston. The sugito existed in the U.S. were produced after the mid-Edo period and, based on their sizes and quality of their depictions, were sold from castles that had been abandoned and were related to the Tokugawa family. An overview of sugito-e as a whole reveals changes in subject and motifs as well as compositions and painting techniques between the early to the middle and the late Edo periods.

研究分野：日本美術史

キーワード：城郭御殿 引手金具 移築 狩野派 廃城令 売立 海外流出 山中商会

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

フィラデルフィア美術館に杉戸 20 枚 (34 面、襖 2 面)、ボストン美術館に杉戸 9 枚 (18 面)、イザベラ・スチュワート・ガードナー美術館 10 枚 (20 面) が収蔵されている。そのうち複数枚の引手金具に葵紋 (と裏葵紋) の意匠が施されていることより、徳川家ゆかりの建造物から大量の杉戸が米国に流出していることに疑問を抱いた。そこで二条城と名古屋城の杉戸を調査することから本研究が始まった。

2. 研究の目的

在米の杉戸が元来所在した建造物を類推し、江戸時代を通して杉戸に描かれた絵の画題やモチーフの変遷について考察する。さらに紙本や絹本ではなく、杉戸 (板絵) ならではの描法について着目する。『本朝画史』の「杉戸ノ図様」の項に、「(杉戸に) えがく人物・花鳥・走獣は、すべて極彩色であることがもつともよい。杉戸に水墨で描けば、時が経るとともに図柄もわからなくなってしまう。図は大きな人物像・大鳥・虎・獅子などだが、その杉戸の場所に応じて描く。板の表面は柾目でヤニのないものが尊重される」¹と書かれているが、杉板に絵を描く上での特別な描法や杉戸ならではの図像的特徴の有無について明白にする。また、狩野派においてどのような絵師が杉戸絵制作に携わったのか、狩野派以外の絵師の参画の有無について実作品と史料より検討する。引手金具を丹念に調査することで、引手の意匠と技術の流れを明らかにする。

3. 研究の方法

日本に現存する杉戸および杉板と米国に流出した杉戸を調査した。米国ではフィラデルフィア美術館、ボストン美術館、イザベラ・スチュワート・ガードナー美術館 3 館に所蔵されている杉戸を調査したが、これら 3 館ともに葵紋 (および、裏葵紋) が施された引手金具が装着されていることより、日本での調査対象は徳川家と直接関係のある城郭御殿と寺院に所在する杉戸に絞った。具体的には、二条城杉戸 80 枚と名古屋城 32 枚を中心に調査した。また、江戸城紅葉山に所在した御殿を解体して客殿・書院・庫裏を移築したと伝わる喜多院の杉戸 6 枚、狩野探幽の基準作と考えられる日光東照宮拝殿の杉戸 8 枚、輪王寺拝殿の杉板の壁画 6 面、尾張徳川家代々の菩提寺である建中寺の杉戸 8 枚、徳川家康の側室で徳川義直の生母の菩提を弔う相応寺の杉戸 8 枚、および、かつては相応寺に所在し現在は「岡崎市立三河武士のやかた家康館」の収蔵品となっている杉戸 4 枚を調査した。また、二条城の改築および名古屋城上洛御殿建造以前に築城された伏見城御殿を移築した西教寺客殿の杉戸 4 枚を調査し、桃山時代から江戸時代への移行期の杉戸にも注目した。その他に和歌山城、松江城、弘前城など廃城前は城に収まっていた杉戸を調査し、比較研究した。

3. 1 杉戸の図像調査

本科研で調査した全杉戸を画題とモチーフ別に分類した。比定できる制作年代別にも分類し、杉戸絵の変遷を考察した。また杉戸に描かれる図像として、襖絵や屏風など障壁画にも描かれた画題やモチーフと杉戸のみに描かれたと推定される作品を選び出した。つまり、類似する絵が存在する場合はその比較を行い、また杉戸のみに確認された画題とモチーフについてはそれが描かれた理由を推察した。江戸城下絵や麻布一本松狩野家資料などに記載されている杉戸絵の下図とも比較し、御殿の各室と杉戸の配置についてその図像から仮説を立てた。

3. 2 引手金具の調査

杉戸に嵌め込まれている引手金具の意匠を細部にいたるまで調査した。引手の調査は金具の魚子地を作るための鑿の打ち方の精度と10mm四方あたりの魚子の個数、毛彫りの技術などから、制作年代を慶長期や寛永期といったスパンで見極めることが可能なため、杉戸の制作年代を比定する大きな手掛かりとなる。引手金具の制作年代を考察する場合は杉戸や襖が設置されている城郭御殿や寺院の本殿など同じ空間にある釘隠しなどの銑金具を調べることで、年代を推定する対象物が増え、その確度が高まる。

3. 3 米国におけるアーカイヴ調査

米国ではフィラデルフィア美術館東洋美術部および列品管理室、ボストン美術館日本美術部のアーカイヴ・ファイル、イザベラ・スチュワート・ガードナー美術館アーカイヴ室を調査した。フィラデルフィア美術館、ボストン美術館、イザベラ・スチュワート・ガードナー美術館に杉戸が収蔵された経緯を調べた。しかしながら、各館のアーカイヴ調査だけでは判明することが少なく、このように大量の杉戸が米国にもたらされた販路を解明する必要を痛感したため、ボストン・パブリック・ライブラリー、ボストン美術館付属図書館、ハーバード大学付属図書館に調査範囲を広げ、当時の資料を調査した。そして19世紀後半から第二次世界大戦勃発までに開催されたオークション・カタログ（売立目録）をつぶさに調査した。前提として、当時どのようなオークションがどのような頻度で開催され、それらのカタログが何種類・何部発行されていたのかも不明なため、杉戸の売り立てが確認できるオークション・カタログの悉皆調査を実施した。

4. 研究成果

米国に流出した杉戸は江戸時代中期以降に制作されたもので、法量と図像から廃城となった城、そしてその廃城となった城は名古屋城二の丸御殿や和歌山城といった徳川家と直接関係する城が解体され、財務省により売り立てられたものと推定される。実際に山中商会の目録にも和歌山城が記載されている。廃城となった城から流出した杉戸は、障壁画や建築部材とともに山中商会や松本文恭らの古美術商がニューヨークやボストンで開催されたオークションで販売していたことが判明した。

二条城と名古屋城の杉戸については共通する画題やモチーフはあるものの、二条城と名古屋城それぞれにしかない図像もあり、また江戸時代中期以降から幕末にかけては「西王母図」や「唐子図」、「寿老人図」など吉祥的図像が見受けられる。特に人物図が狩野派の絵師たちによって頻繁に描かれた各像と類似点が看取され、杉戸絵の図像の定型化が進んでいることがわかる。引手金具については、時代が経つにつれて、葵紋は単純化され、唐草文の描写は荒くなり、また魚子地も鑿を一つ一つ打つ細かで職人として高い技術が要求される技法から、複数の鑿が一つの型となった器具を使って魚子地を作り出す新技法が駆使されるようになったことが引手金具の意匠から判明した。残された課題として、杉戸絵を手掛けた絵師についてである。狩野派においてどのような絵師が杉戸絵制作を命じられたのか。と同時に、杉戸絵は杉板の上に絵を描くという板絵であることから、特に江戸時代前期において杉戸絵制作に「絵馬屋」や「絵馬師」と呼ばれる絵師の関与についても検討する必要があるだろう。杉戸絵ならではの図像的個性についても、引き続き検討したい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 松本直子	4. 巻 1
2. 論文標題 二条城二の丸御殿の内部装飾の全体構想について 廊下杉戸絵を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鹿島美術研究年報第36号	6. 最初と最後の頁 268-279
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	五十嵐 公一 (Igarashi Koichi) (50769982)	大阪芸術大学・芸術学部・教授 (34405)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関